【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成24年7月5日(2012.7.5)

【公開番号】特開2010-48253(P2010-48253A)
【公開日】平成22年3月4日(2010.3.4)
【年通号数】公開・登録公報2010-009
【出願番号】特願2009-190325(P2009-190325)
【国際特許分類】
Ｆ０４Ｂ　49/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０４Ｂ　49/00　　３４１

【手続補正書】
【提出日】平成24年5月18日(2012.5.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つの消費器に供給するために設けられている、圧送体積を調整可能なポンプを備えた流体静力学的な駆動システムにおいて、
ポンプ（２）は、圧送体積を液圧式に調整可能なポンプとして形成されており、ポンプ（２）の圧送体積調節装置（１０）は、圧送体積を高める方向で継続的に設定装置（３３ａ；３３ｂ）によって負荷されており、且つ余分に圧送されたポンプ（２）の体積流を検知する液圧戻し信号に基づき、圧送体積を減じる方向で調節可能であることを特徴とする、流体静力学的な駆動システム。
【請求項２】
ポンプ（２）がオープンループ内で運転されている請求項１記載の流体静力学的な駆動システムにおいて、余分に圧送されたポンプ（２）の体積流を検知するために循環圧力天びん（２０）が設けられており、該循環圧力天びん（２０）は、ポンプ（２）の圧送管路（５）を容器（４）に結合する分岐管路（２４）内に配置されており、循環圧力天びん（２０）は、圧送管路（５）と容器（４）との接続を遮断する遮断位置（２０ａ）の方向に、制御される消費器（６）の最大の負荷圧及びばね（２１）によって負荷されており、且つ循環圧力天びん（２０）は、圧送管路（５）を容器（４）に接続する通流位置（２０ｂ）の方向に、ポンプ（２）の圧送圧によって負荷されていることを特徴とする、請求項１記載の流体静力学的な駆動システム。
【請求項３】
分岐管路（２４）内で循環圧力天びん（２０）の下流側に絞り装置（３０）が配置されており、前記液圧戻し信号は循環圧力天びん（２０）と絞り装置（３０）との間において読み取られる動圧信号として形成されていることを特徴とする、請求項２記載の流体静力学的な駆動システム。
【請求項４】
ポンプ（２）の圧送体積調節装置（１０）は調節ピストン装置（１１）を有しており、該調節ピストン装置（１１）はポンプ（２）の圧送体積調節部材（１９）に作用結合しており、設定装置（３３ａ）は圧送体積調節部材（１９）、特に調節ピストン装置（１１）を、圧送体積を高める方向で継続的に負荷するばね（１４）によって形成されている、且つ／又は設定装置（３３ｂ）は圧送体積を高める方向で継続的に調節ピストン装置（１１

）を負荷する調節圧によって形成されていることを特徴とする、請求項１から３までのいずれか一項記載の流体静力学的な駆動システム。
【請求項５】
調節圧を案内する調節圧管路（３５）はポンプ（２）の圧送管路（５）及び／又は制御圧源（１８）に接続されており、調節圧管路（３５）は圧送体積を高める方向で作用する、調節ピストン装置（１１）の制御圧室（１５ａ）に案内されていることを特徴とする、請求項４記載の流体静力学的な駆動システム。
【請求項６】
調節圧管路（３５）は選択弁装置（３６）、特に切換弁に出口側で接続されており、選択弁装置（３６）は、制御圧源（１８）の制御圧管路（３７）と、ポンプ（２）の圧送管路（５）から分岐している分岐管路（３８）とに入口側で接続していることを特徴とする、請求項４又は５記載の流体静力学的な駆動システム。
【請求項７】
前記液圧戻し信号は調節ピストン装置（１１）に案内されていることを特徴とする、請求項１から６までのいずれか一項記載の流体静力学的な駆動システム。
【請求項８】
循環圧力天びん（２０）と絞り装置（３０）との間の分岐管路（２４）から分岐している戻し信号管路（３１）は、圧送体積を減じる方向で作用する、調節ピストン装置（１１）の制御圧室（１５ｂ）に案内されていることを特徴とする、請求項７記載の流体静力学的な駆動システム。